

2 2 次の正方行列の固有値・固有ベクトルの解答例

演習 2.1 固有値とそれに関する固有ベクトルを列挙する (c は 0 でない任意定数).

$$\begin{aligned}
 (1) & -3, c \begin{pmatrix} 3 \\ 1 \end{pmatrix}; \quad -4, c \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \end{pmatrix} & (2) & 2, c \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \end{pmatrix}; \quad 4, c \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix} \\
 (3) & -1, c \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix}; \quad -2, c \begin{pmatrix} 3 \\ 4 \end{pmatrix} & (4) & 1, c \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix}; \quad -3, c \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \end{pmatrix} \\
 (5) & 2, c \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \end{pmatrix}; \quad -3, c \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \end{pmatrix}
 \end{aligned}$$

演習 2.2 (1) P の列ベクトルを u, v とする (すなわち $P = (u, v)$). P は正則だから u, v は線形独立である. 仮定より, ある定数 α, β が存在して

$$P^{-1}AP = \begin{pmatrix} \alpha & 0 \\ 0 & \beta \end{pmatrix}$$

となる. この両辺に左から P をかければ,

$$AP = P \begin{pmatrix} \alpha & 0 \\ 0 & \beta \end{pmatrix} = (\alpha u, \beta v)$$

を得る. すると, $AP = (Au, Av)$ であるから, $Au = \alpha u, Av = \beta v$ であることが分かる. 従って, u, v はそれぞれ固有値 α, β に関する線形独立な A の 2 つの固有ベクトルである. \square

(2) u, v をそれぞれ固有値 α, β に関する線形独立な A の 2 つの固有ベクトルとする. これらを並べて作った行列を $P = (u, v)$ とすると, u, v が線形独立なので P は正則行列となる. また, $Au = \alpha u, Av = \beta v$ より,

$$AP = (Au, Av) = (\alpha u, \beta v) = P \begin{pmatrix} \alpha & 0 \\ 0 & \beta \end{pmatrix}.$$

この両辺に左から P^{-1} をかければ $P^{-1}AP$ が対角行列になることが分かる. \square

ある正則行列 P があって $P^{-1}AP$ が対角行列になるとき, A は対角化可能であるという. 例えば, 演習 2.1 の行列はすべて対角化可能である. (1) ならば $P = \begin{pmatrix} 3 & 2 \\ 1 & 1 \end{pmatrix}$

とすれば,

$$\begin{pmatrix} 1 & -2 \\ -1 & 3 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} -1 & -6 \\ 1 & -6 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 3 & 2 \\ 1 & 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -3 & 0 \\ 0 & -4 \end{pmatrix}.$$